

平成30年12月 データから見た業界の動き

■ 概 況

12月の山梨県内のD I値は、全体で売上高は－2ポイント、収益状況は－8ポイント、景況感は6ポイントとなり、前年比では収益状況は悪化したが売上高と景況感は改善した。

製造業では、原材料の調達難や人手不足の報告があったが、民間工事における生コンクリート用資材の需要の高まりから砂利・山碎石の受注が増加したとの報告があり、売上高、収益状況、景況感、それぞれ前月から改善した。

前半好調であった半導体は受注減の改善の兆しが見えず、年度末に向けた需要の高まりから取引量は増えているが、消費税増税後は減少を予想する声もある。

非製造業の古紙業界では、中国の古紙不足による国内古紙に対する需要の高まりは継続しており、売上高が増加した。一方、天候の影響から果物は高値での取引が行われ、消費者離れが進み売上は減少した。また、建設業では人手不足や人件費及び資材の高騰に対し工事単価の上乗せができず収益は悪化したとの報告があった。

原油価格の下落からガソリン小売価格も低下傾向だが、中小企業の経営コストの低下までにはつながらず、依然として経営は厳しい状況は続く。

総合的に原材料費・人件費等の経営コスト上昇傾向は引き続き強く、人手不足の慢性化も深刻な状況で、受注機会の損失に繋がっているとの声もある。来年度の消費税増税や働き方改革への対応を懸念する声もあり、中小企業の経営は今後の難しさを増すことが予想される。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	おせち料理関係は前年並みだが、ギフト関係、ホテル、居酒屋向けの業務用が不振で、前年同月比の売上は94.2%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品は専門店、量販店向けとも前年割れ、輸出向けも低調で、前年同月比89.5%。OEMは焼き菓子が好調で114.9%。全体では前年同月比100.5%。
食料品（麺類製造）	原材料の価格高騰から、麺製品の値上げの検討を行っている。
食料品（パン・菓子製造業）	原油価格が安定し、ボイラ-に使用する灯油価格も安定した。人材の確保に苦慮しており、定年退職した従業員の再雇用を行い対応している。
繊維・同製品（織物）	原材料の価格が上昇しているが販売価格へ転嫁は難しい状況である。

木材・木製品製造	働き方改革による休日、労働時間の見直しのため効率の良い仕事内容になるよう内部改革に努めたい。
家具製造	10月の消費増税による影響が懸念される。
窯業・土石（砂利）	骨材の需要は多いが、運搬・生産にかかる経費の増大から収益状況を圧迫している。売上高は前年同月比で30%増加。
窯業・土石（山碎石）	中部横断自動車道建設工事の完了が近づいていることから舗装用石材の需要が減少しているが、民間工事の生コンクリート用資材の需要が高まり、全体として売上高は15%改善。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	前年と比較し稼働率が上昇。いつまで続くかは不透明。
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	半導体関連は、受注が大きく減少した。来年の消費税増税後は更に厳しい状況になると懸念している。
電気機器 （工作機械部品加工業）	受注は確保できているが、人手不足により残業等が増加。売上高の増加以上に人件費が嵩んでいる。
電気機器 （工作機械部品加工業）	半導体関連の受注状況がさらに悪化したが、自動車・工作機械関連は仕事量が増加している。
宝飾（貴金属）	1月に展示会があるが、受注が少なく新作をつくる動きはすくなくかった。

● 非製造業

卸売（紙製品）	これまで好調だった中国への古紙の輸出は今後規制が進み、取扱量は減少していくと考えられる。国内メーカーは値下げ傾向であると同時に在庫調整が行われたが、売上高は前年同月比150%。
卸売（ジュエリー）	中国ではモバイル決済情報の政府による監視が厳しくなるとの情報から買い控えが進み、香港及び国内の宝飾フェアにおける中国バイヤーの購買意欲が低下している。売上高は前年同月比で10%悪化した。
小売（青果）	温暖で天候が良かったため、菜物、根菜類の出荷量が多く、価格が安定した。果物はリンゴ、ミカンが台風の影響から高値で取引され、売れゆきが悪化、全体の売上高は前年同月比で11.79%悪化した。
小売（食肉）	国産豚の仕入相場が安く、収益状況が改善しやすい状況になった。
小売 （電気機械器具小売業）	4K・8K放送開始に伴うテレビの販売量は11月までの需要が増加した反動から12月は低調となった。チューナー搭載機種の発売を見据えての影響なのか売上げは伸び悩んでいる。
小売 （その他）	紙類の原材料価格、物流経費等の上昇により各メーカーは販売価格を現行価格から値上げを行う予定。
小売 （ガソリン）	原油価格の下落が止まらず、卸価格も下がっている。
商店街	消費増税や働き方改革への対応による中小企業者にとっての影響を危惧している。
美容業	12月は毎年通常月より来客数が増加するため、売上高は10%増加した。年末、年度末で組合を脱退する組合員が増加傾向であるため、非組合員の事業所に対し組合の加入メリットを理解してもらい加入につなげたい。

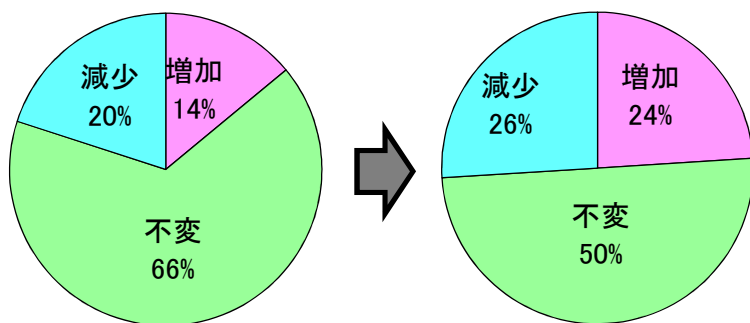
警 備 業	先月に続き売上高は前年同月比で10%増加した。中長期の公共工事現場の警備業務を安定した価格で受注できさらに取引条件が改善されている。しかし時間外労働の抑制、休日等の確保のため受注を控える状況となっている。売上高の上昇から労務単価の引上げを行うことができ、離職が減少したほか、求人に対する募集も若干増加したが、依然として深刻な労働者不足は解消されず、取引先の要望に応えられない状況は続く。
建設業（総合）	12月の県内公共工事動向によると、前年同月比で件数は24%、請負金額は53%減少している。12月末累計では件数は0.7%増加、請負金額は5%増加している。
建設業（型枠）	年末から年明けに向けて大型物件が公共、民間工事ともに予定があるが、人手不足による人件費や材料価格の高騰に対し、工事単価の上昇が小さく収益を圧迫している。
建設業（鉄構）	鋼材・資材の価格上昇と入手が困難な状況が続く。県外の物件に依存する傾向は変わらず、県内物件の増加に期待する。
設備工事（電気工事）	住宅着工件数は先月までは増加傾向であったが、公共施設の受注は横ばい。業績全体からみると上向きの変動要素はない。
設備工事（管設備）	水道法の一部改正により、指定給水装置工事事業者制度への更新制が導入された。今後は手続き等の概要について注視していく。
運輸（タクシー）	燃料費は少し値下りしたが、乗務員不足が経営に深刻な影響を及ぼしている。
運輸（バス）	人手不足が課題である。
運輸（トラック）	燃料費は少し値下がったが、いまだに高値であり今後の動向に注視していく。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/12	2018/11	2018/12	2017/12	2018/11	2018/12	2017/12	2018/11	2018/12
売 上 高	-5	-5	0	-7	7	-3	-6	2	-2
収 益 状 況	-10	-10	0	-3	7	-13	-6	0	-8
景 況 感	0	-15	-5	-13	7	13	-8	-2	6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売 上 高 (前年同月比)

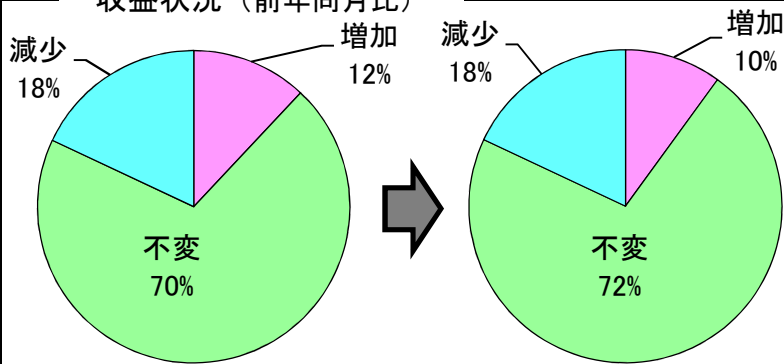


平成29年12月

平成30年12月

- ・ D I 値 ▲ 2 (前年同月比▲ 4)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ± 0 (前年同月比 + 5)
 - 非製造業 ▲ 3 (前年同月比 + 4)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 + 5
 - 非製造業 ▲ 10

収 益 状 況 (前年同月比)

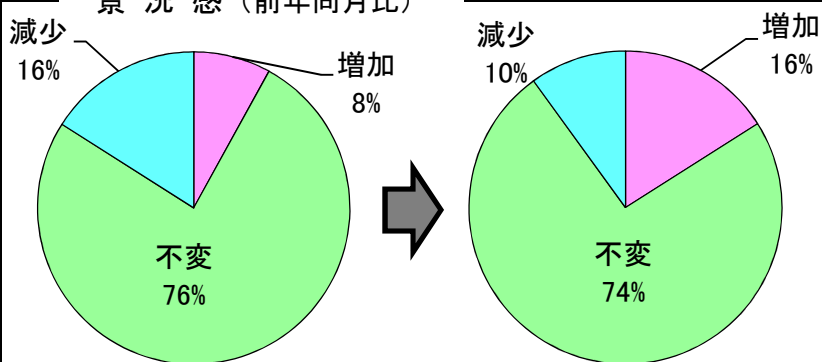


平成29年12月

平成30年12月

- ・ D I 値 ▲ 8 (前年同月比▲ 2)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ± 0 (前年同月比 + 10)
 - 非製造業 ▲ 13 (前年同月比▲ 10)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 + 10
 - 非製造業 ▲ 20

景 況 感 (前年同月比)



平成29年12月

平成30年12月

- ・ D I 値 + 6 (前年同月比 + 14)
- ・ 業種別 D I 値
 - 製 造 業 ▲ 5 (前年同月比▲ 5)
 - 非製造業 + 13 (前年同月比 + 26)
- ・ 前月比 D I 値
 - 製 造 業 + 10
 - 非製造業 + 6